

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。


○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム・友の里
所在地 (県・市町村名)	三重県鈴鹿市長沢町1750-1
記入者名 (管理者)	北浦妙子
記入日	平成 19 年 9 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	利用者また家族様の満足と信頼を得る事を目的としご利用者の要望と自主性を尊重することを目的とする。	○ 「楽しく」「のんびり」「その人らしく」を目的としている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	定例会議、また日常的に職員全員に理念を伝え施設フロアにも掲示し実践に向け日々取り組んでいる。	○ 施設フロアに掲示 月1度定例会議 2ヶ月一度地域推進委員会の実施
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご本人、家族に対して重要事項説明書に記載し、説明、またホールに掲示し地域の人にも理解して頂けるよう取り組んでいる。	○ 地域交流 地域小学校との交流。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関さきや庭に花を植え、畑には野菜を作り、近隣の人に栽培方法の手ほどきを受け、また畑仕事の出来ない雨降りの日には、施設に立ち寄っていただき利用者さんと一緒にレクリエーション等を楽しんでいただいている。	○ おやつ作り・折り紙・漬物作り・等
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	定期的なボランティアの受け入れや地域推進会議等での自治会との交流を持ち地域の一員としての交流につとめている。	○ 地域老人会(踊り、手品) 地域推進委員会

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢者の方の余暇の時間を有意義に過ごして頂くように、気軽に立ち寄っていただき、手芸、ものづくりの場を提供。	○	施設行事(盆踊り)等ちらしを配布し近隣の方にも参加を促している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ケアマネ、職員で自己評価の見直しや、意義を話し合い、理解し改善に取り組んでいる。	○	毎日の申し送り、定例会議等
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で生かされている。	○	2ヶ月一度定例会議(自治会長、利用者家族・利用者・地域包括・介護者)を開催
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活相談員との連携 地域包括センター	○	月一度ホーム便りの配布、掲示等 地域推進委員会
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・介護支援専門員・職員権利擁護研修を受講済み	○	権利擁護・成年後見制度について理解できるよう話し合っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、定例会議等で話し合いを持っている。 玄関、門扉、等に施錠せず常時開放	○	常に話しあい、見守りを重視する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書による説明	<input type="radio"/> 入所契約時に本人、家族に対して重要事項説明書の提示にて、理解して頂けるよう十分な説明を行っている。
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員の介入、地域推進会議により外部への表せる機会づくりに努めている。	<input type="radio"/> 利用者が不満や、苦情を気軽に言えるよう管理者や職員全員が常に傾聴できるよう勤めている。 生活相談員介入による傾聴の受け入れ 地域推進委員会会議の導入。
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定例的に連絡、報告をしている。	<input type="radio"/> 毎月利用料請求時に本人の状態、状況を「近況報告」として掲載 来訪時にもその都度詳しく報告、少しでも状況に変化があれば電話にて報告をしている。
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域推進会議に設置、広報	<input type="radio"/> 地域推進会議を設け、利用者、家族、地域の意見を聞き入れまた施設の広報等で外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議、調整会議	<input type="radio"/> 定例会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの人員配置基準に基づき利用者や、家族の要望に対応ができるよう、必要な時間帯に職員を配置し勤務の調整に努めている。	<input type="radio"/> グループホームの人員配置基準に基づき利用者や、家族の要望に対応ができるよう、必要な時間帯に職員を配置し勤務の調整に努めている。
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不穏や、動揺を回避するため担当者を決め、交代で生活支援を行うよう配慮をしている。	<input type="radio"/> 利用者各居室の掃除、衣類の整理を職員と一緒にすることで不満、心配ごと等を気軽に話せる機会を持つ事で信頼関係を密にしよりよい関係が保てるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1ヶ月は、研修期間と定め段階的に指導している。	○	グループホーム連絡協議会や病院等が主催する研修に参加し質の向上が出来るよう指導している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携を持ちサービスの質向上に努めている。	○	Gh・連絡協議会会員、在宅介護支援センター・地域包括センター、介護老人福祉施設、介護老人保健施設との連携による研修に参加する等の活動を通じて介護サービスの質の向上に努めている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に相手に思いやりを持ち、仕事に取り組めるよう話合える場所を持つようになっている。	○	日常的和める空間作り、親睦、行事の充実。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者自ら現業に携わり状況の把握に努めている。	○	職員の悩みや訴えに耳を傾け勤務状況を把握している。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に介護保険、健康診断、感染症、医師の意見書等の確認、本人の趣味、嗜好、これまでの生活歴、生活習慣を本人自身、また家族から聞き取り本人の希望を傾聴し信頼関係をつくる。	○	本人の今までの生活歴、身体状況、趣味、嗜好要望等を把握し本人の希望に沿った介護に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族の困っていること、また希望していることを聞く機会を作っている。	○	面接時に介護保険、健康診断、感染症、医師の意見書等の確認、本人の趣味、嗜好、これまでの生活歴、生活習慣を本人自身、また家族から聞き取り本人の希望を傾聴し信頼関係をつくる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に馴染めるか、また不穏にならないよう体験入所の支援。	○	本人が馴染めるよう支援するため、家族より愛用されていた大切な持ち物を持参していただいたり、趣味等情報収集し、早く落ち着いた生活ができるよう努めている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に馴染めるか、また不穏にならないよう体験入所等を支援	○	本人が馴染めるよう支援するため、家族より愛用されていた大切な持ち物を持参していただいたり、趣味等情報収集し、早く落ち着いた生活ができるよう努めている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーを重視し馴染めるような雰囲気作りを工夫している。	○	利用者と一緒にテレビを見たり、レクをする中で喜怒哀楽をともにし、よりよい関係を作っている。また昔の風習や慣わし、懐かしい料理を教えていただいている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問する機会の工夫	○	また訪問時には自然な会話の中で介護計画について説明し、意見を聞くチャンスを作っている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者一人ひとりのこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知りその人らしく生活ができるよう関係作りを工夫している。	○	家族会、誕生会、盆踊り大会等開いて日常の暮らしぶりを撮影し其の様子を見てもらっていただいたり(お便り)して家族とのよりよい関係作りをしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりのこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知りその人らしく生活ができるよう関係作りを工夫している。	○	馴染みの人や場所等を取り入れた会話を持ち家族や馴染みの人への関心を引き出す取り組みをしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共用空間の中に、入居者が一人になったり気の合ったもの同士自由に過ごせるような居場所を確保している。	○	入居者個々の状態の変化、入居者同士の関係性の変化に応じた環境作りをしている。ちょっとした空間を活かし居場所となるスペースを数箇所作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅介護サービス事業者との連携	○	老人保健施設、病院へ入院された方の見舞いや、訪問等をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に見合った余暇の過ごし方の支援について常に話し合っている。	○	買い物等、本人希望時に支援 家族に自由に連絡できるよう支援(携帯電話使用)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医師の診療情報提供書、家族からの聞き取り、在宅介護サービス、居宅支援事業所との連携。	○	入所前に本人、家族からこれまでの生活状況の様子や、趣味嗜好等知り得た情報をもとに介護計画を立て、管理者、職員と、共に本人の希望や要望に沿えるよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常的に利用者個々の状況を生活記録に記載し、心身の状態を職員全員が把握するように努めている。	○	職員会議や、家族来訪時に本人の要望を話し合いそれぞれの意見を生かした介護が出来るよう介護計画を作成している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス調整会議の実施	○	職員会議や、家族来訪時に本人の要望を話し合いそれぞれの意見を生かした介護が出来るよう介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	六ヶ月に一度介護計画の見直し	○	利用者の状況に変化が生じた場合、主治医等必要な関係者との話し合いで、現状に即した新たな計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日々の変化を、日常生活記録	○	日々の変化を気づきにより情報を共有し介護計画に生かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の、希望していることを聞く機会を作っている。	○	その時の要望を職員会議等で検討し柔軟な支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用	○	避難訓練、地域小学校との連携
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域資源の活用	○	ボランティア、地域小学校との連携
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一度地域推進会議励行	○	地域推進会議(自治会、包括、利用者、家族)にて定期的に連絡を持ち協力、連携している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、基本的には家族が対応(今までの馴染みのかかりつけ医)	○	グループホーム主治医(契約医)在宅療養支援診療所指定医 24時間連絡を受ける医師、看護職員を配置され対応可能であり適切な医療を受けられるよう対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	定期的往診により、常に利用者の状態の把をして頂き、気軽に情報交換をしている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	毎日の健康管理、月一度の定期的な受診、往診による健康管理。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	定期的な医師往診時に情報交換をしている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	主治医(在宅療養支援診療所の指定医)との連携により、ターミナルケアも視野に入れている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	利用者、家族と検討。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	医師の診療情報提供書、退所サマリーの提示。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	たの人の目に触れないように配慮する。	○ 排泄の有無の確認、排便排尿意の自覚がない利用者に対しては、状況の状態等を見極めさりげなく声がけ、促し誘導を行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	整容、食事、入浴支援等自己の決定を尊重し満足して頂ける様支援している。また衣類の着替えは、好みの衣類を選択、食物の好みを聞くなどして本人希望に添えるよう支援している。	○ 着替え時に本人の好みの衣類を選んで頂く、食事、入浴等もなるべく本人希望に添えるよう支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に見合った生活の支援 レクへの参加等を強制しない。	○ 個々に見合った余暇の過ごし方を優先している。本人の意思を尊重し、無理な集団行動には参加させない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容に於いては、(整容、美容院)への対応は基本的には、家族が対応(本人なじみの店) 衣類も本人の趣味に見合ったものを着用。	○ 外出時、また入浴前職員と一緒に選んだり、毎朝鏡に向かい、化粧、髭剃り等を自らしていただくよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に見合った個々の好みを取り入れ職員と一緒に食事の準備やかたづけを共有している。 また旬の食材を常に取り入れ「話題づくり」楽しみ作りの支援をしている。	○ 時々であるも利用者一人ひとりが食べたいものを作り摂取できるよう支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人希望時に買い物等の同行支援している。	○ 本人が好みの物を摂取できるよう買い物の支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常的に個々の排便、排尿の記録を取り排便の周期の把握に努めている。	○	個々の排泄の状況を把握し一人ひとりの排泄の習慣を活かして排泄できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には本人の希望を優先	○	入浴、毎日入浴可能、本人の希望を優先に援助している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩、音楽体操等により適度の運動により安眠していた抱けるよう支援している。	○	昼食後の休憩(昼寝)また夜間気持ちよく安眠していただけるため軽いレクリエーション等の支援
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に見合った生活の支援をしている。	○	家事援助(調理準備、洗濯、縫い物)個々に見合った支援をしている。楽しみ(カラオケ、映画鑑賞、折り紙)等支援。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に本人希望時に近隣のコンビニにまたスーパーへの買い物支援	○	ストレスの解消、運動を兼ね日常雑貨(歯ブラシ、化粧品)等買い物の同行支援
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ね近隣での買い物支援、家族との連携により外泊、墓参り等の支援している。	○	日常的に本人希望時に近隣のコンビニにまたスーパーへの買い物、散歩を兼ね外出の支援をしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画に(花見、芝居、外食、)等で外出の機会をつくり支援している。	○	施設としては月一度、家族対応希望日に常時外出できるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に本人希望時に近隣のコンビニにまたスーパーへの買い物の支援	○ ストレスの解消、運動を兼ね日常雑貨(歯ブラシ、化粧品、はがき)等買い物、また手紙の投函の同行支援 個人の携帯電話の保持(事務所預かり)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が気軽に立ち寄れるような空間作りを常に工夫している。	○ 家族会や、誕生日会、ボランティアによる歌謡コンサート等を定期的に開催家族友人が気軽に参加できるよう支援している。
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊、異食、オムツ外しに対して常に見守りの回数を増やす事により身体拘束をしない。	○ 職員全員が利用者の個々の状況を把握し徘徊(帰宅願望)者の方状況に見合った散歩、買い物等の支援をしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関等は施錠せず開放している。	○ 帰宅願望のある利用者さんには常に傾聴、会話、見守りを励行し安心して過ごせるよう支援している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内のどの位置からも利用者一人ひとりの様子を確認できるように支援している。	○ 入居者一人ひとりの位置と様子を把握している。入居者のそばでの記録、昼夜問わず利用者の行動の見守り、夜間は各居室の巡視確認をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬等は利用者、家族との話し合い理解の上保管管理している。洗剤、調理器具等管理	○ 各利用者さんの薬は、事務所で預かり其の都度手渡し、服用確認をしている。調理器具、洗剤等の保管場所には夜間施錠をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の行動を常に見守り自己のないように安全を図る。	○ 利用者個々の行動を常に見守り自己のないように安全を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網の設置緊急時に備えての研修をしている。またマニュアルの設置。	○ 事故時の報告と記録を活用、職員全員周知し再発防止に努めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害に備えて訓練をしている。	○ 災害時には近隣の介護老人福祉施設へ避難時受け入れの協力を得られるよう連携をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には家族との話し合い、リスク対応に関する同意書を取る。	○ その人に合った介護を行い家族には状況を伝え認識していただく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気付き、申し送りの徹底	○ 個々の日常記録、バイタルチェック、定期的な申し送りにおいて気付きを徹底し対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族、本人了解の上預かり保管管理	○ 個々の日常生活記録ファイルに添付し、職員が常に確認している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活記録等で排泄の状況の確認	○ 水分補給、繊維食物、適度の運動の励行。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食、おやつ摂取後の口腔ケアの励行支援	○ 朝食、昼食、夕食、おやつ後の口腔ケアの促し、誘導、介助

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の身体の状況の把握(日常生活記録)しその人に合った支援をしている。	○	食材、水分摂取量や嗜好を理解し支援している。 食事量、おやつ時に必ず摂取量の確認を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防マニュアルにて職員全員が周知し安全予防管理に努めている。	○	朝食後毎日「イソジン」鼻腔、口腔ケア 毎食前手洗い「お絞り、エタノール」にて消毒の励行 トイレ後、食前に手洗いの励行 汚れた衣類、清拭タオル等は、洗濯前塩素系漂白剤に浸す。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、冷蔵庫、冷凍庫に保存し調理した物は、その日のうちに食べきるようにする。	○	調理の前後には、手洗い消毒の励行、調理器具の洗浄の励行。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にスロープ、手すりの設置を行い安全を図っている。	○	庭に花を植え、畑には野菜を作り、施設隣接場にウッドデッキを設置し家庭的な雰囲気作りを工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくり楽しく過ごせる場所作りに工夫している。	○	フロアーには、色々なソファを設置それぞれにあった居場所で気心の知れた者同士好みの場所で会話を楽しめるよう工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気心の知れた者同士好みの場所で談話できるよう工夫している。	○	利用者同士気軽に会話できる居場所の提供。 小人用「ソファ」の設置 多人用「ソファ」の設置 居場所の工夫。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく在宅生活の雰囲気を持ち込む。	○	本人が愛用していた馴染みの物を持参して頂きなるべく自宅に近い状況で利用していただくよう工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に見合ったエアコンの調節 空気清浄機の設置 トイレ(臭い)換気、掃除の徹底。	○	毎朝起床の声かけ時に窓を明け空気の入替えをし利用者が気持ちよく生活できるよう工夫している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を予防する手すりや、椅子テーブルを伝って歩いていただく、また施設全体がバリアフリーであり自立した生活が送れるよう工夫してある。	○	認知症の人の身体面の機能の低下の特徴を理解し買い物や散歩、調理等日常生活の中で自然に維持、向上するように取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドアに名前を明記、私物には、わかりやすく名前をつけてわかりやすくする。	○	食器、湯のみ、個々の愛用品を使用 居室に個々の名前を書いてわかりやすくする。 居室内には本人の写真、作品の掲示。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節を感じていただけるよう支援している。	○	玄関先や庭の花壇に花を植え、生花に利用、畑には、季節の野菜を育て収穫を楽しんだり活用できるように生かしている。 外にはウッドデッキを設置、外気浴を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域での活性化、地域に密着した集いの場に出来たらと思う、今以上に近隣の大人や子供達が気軽に出入りできるように、行事の充実を図り地域の人と一緒に作る楽しみの場にしたい。